


 子育て中に必要な薬(エッセンシャルドラッグ)は?	1ページ
 『花の会』3月の活動です/今月の植物を探せ!vol.10/今月のイチオシ図書	2ページ
 新任医師自己紹介/糖尿病ワンポイントアドバイス/「糖尿病教室4月」のお知らせ	3ページ
 外来診察のご案内/外来からのお知らせ	4ページ

新学期ですね。入園・入学等を迎え

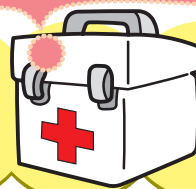
気持ちも新たになったところで、

おうちの薬箱も

新たに整理整頓してみてもいかがでしょうか?

## エッセンシャルドラッグ

# 子育て中に必要な薬は?



子どもの症状として多いのは、咳、喘鳴、熱、嘔吐(はくこと)、下痢、腹痛などです。中でも喘鳴(ゼロゼロいうこと)、熱、嘔吐、繰り返す下痢は心配な症状です。子どもの急変時にとりあえずの対応ができる薬を持っておくことは保護者の方の安心につながります。このような緊急時に使用する薬が、子育て中のエッセンシャルドラッグです。

カゼを引くと喘鳴を起こしやすい子どもでは、ホクナリンテープ®を準備しておくことで安心です。喘息と診断がついている子どもでは、メプチン®の吸入薬や、使用するときにはネブライザーが必要ですがベネトリン®の吸入薬も有効です。

ホクナリンテープ®は気管支を広げる薬です。気管支炎や喘息による咳(喘鳴のある咳)に対しては有効ですが、上気道炎(いわゆるかぜ)の咳には効きません。時々かぜの咳にホクナリンテープ®を使っている方を見かけます。「ぜーぜー」言っているか確認してください。

熱に対しては解熱剤を準備しておいてください。子どもではアセトアミノフェンが入った解熱剤が安心です。三重病院では、座薬としてはアンヒバ座薬®を、経口薬としてはカロナール細粒®やカロナール錠®をよく処方します。座薬は冷蔵庫で保存してください。溶けなければ5年間有効です。細粒や錠剤はしけらないよう、直射日光が当たらない

ように保管してください。ポンタールシロップ®やボルタレン座薬®は使用回数が減っています。特にインフルエンザのときは使用しないことになっています。

嘔吐に対してはナウゼリン座薬®を用意して置いてください。熱をだすと吐きやすい子どもでは必須です。冷蔵庫に保管しておくことで5年間は有効です。下痢があるときは脱水対策として、経口補水液であるOS-1を下痢の量だけ飲ませてください。吐き気が強いときはゼリータイプのOS-1が飲みやすいです。

腹痛の原因の多くは便秘によりガスがたまり、大腸が伸展されて痛みが出てきます。便秘による腹痛の治療は、お腹を暖め、体を動かすことです。車に揺られてもよくなります。

子どもにより、よく訴える症状は異なります。自分の子どもに合った薬を安心のために準備して置いてください。また、慢性の病気で薬を使用している方は、大規模災害に備えていつも服用している薬やインスリン(針や注射器も)を、常時使用しながら2週間程度余分に備蓄しておいてください。三重県では東南海地震の発生が危惧されています。(院長 庵原 俊昭)

